

# 第32回 ヒューストン補習校 vs ダラス校 親善ソフトボール大会

1ページ続き

## 小学生

子どもたちが「制約」よりも「自由」を感じる時間を過ごしたこの一年、サッカー代表躍進、侍ジャパン優勝、大谷翔平大活躍など多くのスポーツ選手が子どもたちの胸をときめかせた。甲子園に優勝した慶應義塾高等学校の部訓「Enjoy Baseball」しかり、昨今活躍している日本の選手たちは、自由に楽しむ力が長けているように感じる。さて、スポーツが盛んなこの地で、躍動するスポーツ選手たちを目の前に子どもたちはどんな学びを得ているのだろうか。Respect精神を持ち、楽しむことを目指したこのダラス戦はそれを垣間見ることが出来るのだと思う。

今回の小学生は4試合。低学年の男子CC、中高学年主体のC Jr.、女子チーム、野球経験者中心の男子Cの順に開催された。

1戦目の男子CCは17-12で見事に勝利。打撃は皆が迷うことなく素直に弾き返し毎回得点。守備ではよくカバーしあい、ダブルプレー等の好プレーも飛び出し2イニングを0点に抑えた。皆が笑顔に溢れた気持ちの良い勝利だった。

2戦目のC Jr.は一枚上手のダラスが投打で圧倒。序盤10-0と厳しい展開だったが、ここで落ちないのがこのチーム。4点、5点返し底力を見せる。双子HRが飛び出す等、皆が声を出して走り続けた。18-24で敗戦となったが、最終回に5得点してみせるこのチームには点差ほどの実力差を感じず、来年の成長が期待できた。

3戦目の女子チームは22-12で敗戦であった。実力差はあったが、しっかりと打っては走るを続けて毎回得点を重ねながらよく追い付き、食らいついた。終了後の子どもたちの充実した表情が印象的であった。

1勝2敗で迎え、負けられない注目の男子C。気合十分の選手たちが初回から躍動した。後続を信じヒットと得点を重ね、キレのあるプレーで守り切る。圧勝か？と思いきやそうはいかない。相手も取り返し一進一退の攻防が続く。同点で迎えた最終回表に2失点。裏に逆転サヨナラを狙ったが、相手の好守備に阻まれ14-13で惜敗となった。両チームが全てを出し切り、コーチも含めて後悔のないドラマの様な試合だった。

閉会式後、ダラスの選手たちと「あのプレー良かったな」「来年またやろう」と互いを称えていた選手たちを見て、甲子園決勝で敗れた仙台育英高校須江監督の「負けた時にこそ人間の価値が出る。Good Loserであれ」という言葉を思い出した。来年また子どもたちが自由に伸び伸びと楽しむ姿を見せてくれるに違いないと確信した。

何か月も前から準備し当日滞りなく運営頂いた運営委員の皆様、応援とボランティアをして頂いた保護者の皆様、ベースコーチをして頂いた校長先生をはじめとした補習校の先生方、何より選手を導いてくださった監督・コーチの皆様改めて感謝の意を表したい。(松崎文吾)



## 中高男子

2023年の男子チームは高3(ジェイク)、高2(智通、航太郎、洋輝、天陽、大輝)、高1(聖夏、亞成)、中3(彩人)、中2(侑生、友哉)、中1(瑞葵、泉、真樹人、優斗、貴一)の16名。総勢30名のダラスを相手に、ヒューストンは全選手がAB両試合に出場した。

Bの試合は逆転を繰り返すシーソーゲームとなった。4回表にダラスが一挙7得点を取って4-9とされた後、ヒューストンは大輝、亞成、友哉、洋輝、聖夏、航太郎、瑞葵の連続ヒットで一挙6得点し逆転に成功。しかし、5回と6回はダラスの得点を許し、10-11で最終回を迎えた。ヒューストンは洋輝の内野安打での出塁後、聖夏、航太郎、智通の連続長打により2得点し、12-11の見事な逆転サヨナラ勝利を飾った。

ダラス男子Aチームは野球経験者ぞろいで高3が5人いる強豪チームであった。大人3人を参加させたヒューストンであったが、相手の強力な打線と確実な守備を相手に2本のホームランと24本のヒットを浴び20得点を許した。それでもジェイク、瑞葵、侑生は守備で活躍。友哉は最終回にサード越えのタイムリーヒットを打ち、1点を奪取した。ヒューストンのチームは野球経験者が少なかったが、最後まであきらめず懸命にプレーした選手たちの姿は、たくましく印象的だった。今回の経験は彼らにとって大きな自信となると共に、将来への大きな一歩となるとに違いない。(池上徹郎)

## 中高女子

2023年の女子チームは高3(杏)、高2(愛納)、高1(オードリー)、中3(麻利)、中2(心美、真椰)、中1(澄玲)の7名に加え、OGの桜香、萌乃香が参加。大人5名(澁谷、佐々木、成瀬、福元、樽谷)が協力し、2つの不足ポジションを埋めた。ヒューストンは終始ダラスを圧倒し、一回裏には萌乃香、麻利、オードリー、桜香、心美とヒットが続き4点を奪取。2回裏には成瀬、福元、萌乃香、麻利、オードリー、桜香、杏、心美の8者連続ヒットで一挙6点を追加した。ダラスの反撃は6点止まりで、ヒューストンは最終回には桜香、杏、心美、澄玲、真椰、佐々木がヒットを打ち3点を追加。試合は15-6の快勝で終わった。ヒューストン中高生7名の平均打率が5割7分、総打点が9というすばらしい結果を残した彼女達は笑顔と共に優勝カップをヒューストンに持ち帰ることに成功した。

今回のダラスとの試合での両チームの全力プレーによる健闘を称えと共に、女子チームの編成に尽力して下さった皆様に深謝したい。(池上徹郎)

